

ジンコソーラー、第2四半期純利益は前期比 2653%増加

2018年8月13日、世界をリードする太陽光発電企業ジンコソーラー（NYSEコード:JKS）は、2018年第2四半期に監査されていない財務決算を発表した。決算によると、第2四半期の業績は前期比大幅に上昇した、複数の財務指標及び運営指標は予想以上に良い。ジンコソーラーは未来の発展に自信を持っている。

2018年第2四半期の太陽光発電モジュールの出荷量が2.8GWで前期比38.7%増加、営業利益が60.6億円で前期比32.7%増加、粗利益が7.3億円で前期比11.0%増加、純利益が1億円で前期比2653%増加した、前年同期比109%増加した。

下半期の太陽光発電モジュールの出荷量は6.7GW-7.2GWを見込んでおり、上半期より40%以上向上する。前年の太陽光発電モジュールの出荷量は11.5GW-12.0GW、前年同期比17%以上向上する。営業利益につきまして、ジンコソーラーはグローバル化の発展戦略、強い協力パートナー、競争力のある高効率製品、強い研究開発能力、先端な生産能力と優位性のあるコスト構成などにより、下半期も大幅に向上できると見込んでおる。

ジンコソーラー（JinkoSolar Holding Co., Ltd.）について

ジンコソーラー（NYSE: JKS）は太陽光発電産業のグローバルリーダーです。ジンコソーラーは中国、米国、日本、ドイツ、英国、チリ、南アフリカ、インド、メキシコ、ブラジル、アラブ首長国連邦（UAE）、イタリア、スペイン、フランス、ベルギー、その他の諸国地域にあるさまざまな公益、商業、居住区顧客基盤に対し、自社ソーラー製品を供給し、自社ソリューションとサービスを提供、販売。ジンコソーラーは2018年3月31日時点で、垂直統合ソーラー製品バリューチェーンを構築して、シリコンインゴットとウエハーで9.0GW、太陽電池で5.0GW、太陽光発電モジュールで9.0GWの年間総発電容量がある。

ジンコソーラーは世界で8ヶの生産拠点があり、日本（2）シンガポール、インド、トルコ、ドイツ、イタリア、スイス、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、チリ、オーストラリア、南アフリカ、アラブ首長国連邦、16の海外子会社を持ち、販売チームはイギリス、ブルガリア、ギリシャ、ルーマニア、ヨルダン、サウジアラビア、南アフリカ、エジプト、モロッコ、加納、ケニア、コスタリカ、コロンビア、パナマとアルゼンチンに広がって、従業員が1万2000人以上を雇用しております。

〒104-0031

東京都中央区京橋二丁目2番1号京橋エドグラン9階

代表電話：03-6262-6009

FAX：03-6262-3339

ホームページ：<http://www.jinkosolar.com/index.html?lan=jp>